インタープレス

科学技術熟語表現大辞典

〈英和〉

インタープレス

科学技術熟語表現大辞典

〈英和〉

INTER PRESS

Inter Press
Dictionary based on
Idiomatic Expressions
English - Japanese

インタープレス

科学技術熟語表現大辞典

英和編

（和英編・英和編全２巻）

1984年５月10日　　第１版第１刷発行©

Executive Editor　　可部淳一

Editor/Publisher　　藤岡啓介

発行所　　株式会社インタープレス
〒162 東京都新宿区山吹町81番地
電話　東京 03（268）4421(代表)
振替口座　　東京３－186534

製作担当　〔データ入出力・処理〕インタープレス・データ処理部／アドレスデータ／平和情報センター／電算プロセス〔印刷・製本・製函〕萬友社／堅省堂／野口紙工〔用紙〕秀明社

ISBN4-87087-003-7

乱丁・落丁本は小社にてお取替致します。

『科学技術熟語表現大辞典』刊行に当たって

1974年4月に月刊誌『工業英語』を創刊して10年の日月が経過いたしました．この間，きわめて読者層を限定した月刊誌である『工業英語』，いったいなにほどのことができたのでしょうか．工業技術関係の英語を工業英語という言葉で一般化したことには貢献したことでありましょう．それに伴い，工業英語には独特の語法があること，すなわち，技術を理解する力がなくては存分に活用できない語彙，語法，形式があることを知らしめることにも力あったものと信じます．さらに，翻訳に技術あることも，『工業英語』誌がもっとも執拗に主張し，及ばずながらそれを立証しようと努め，工業英語翻訳に権威を付与することにも，いいばかりか功あったと認められましょうが．

さらに多くのこと，語彙，語法，統語論を深め，さらに体系的に工業英語論を展開すること，百科事典，類語辞典，数ヵ国語辞典，反対語辞典，あるいは和英対応のシソーラスの編纂など，大小規模の特殊辞典の出版をと，わたしたちはこの10年間にさまざまな計画を持って日々に対処してきましたが，しかし，これらはいまコンピュータ技術の力を借り，ようやく緒についたばかり，その成果を世に問うのは今後の10年へと持越され，今，ここに出版する『熟語表現』を含む科学技術三大辞典に，これまでの10年間の思いを凝縮させることになりました．

わたしたちは，1983年4月に刊行した『科学技術25万語大辞典』で語彙を集成し，言葉の典拠すなわち語義なりとの新しい辞典作りを試みました．ついで1983年11月に刊行した『科学技術活用大辞典』では，世界にない対訳コンコーダンスを開発，語法解明の基礎となる仕事を手掛けました．これら全ては，コンピュータによる処理を前提とした編集計画から始まり，数々の電子辞典（単語レベル，文章レベル）を構築し，編集プログラムを開発することで成しとげました．コンピュータなくしては物理的に不可能な処理を実行することで，これまでにない，しかし必ずあって然るべきである辞典作りを行ってきたわけです．

そして今回，翻訳技術にとくに着目した大辞典である本『科学技術熟語表現大辞典』を編纂して，『工業英語』誌創刊10周年記念事業科学技術三大辞典の掉尾を飾るべく，ここにその成果を問うに到りました．コンピュータに蓄えた対訳文例群，そしてもうひとつ熟語成句の英和対応語句群，この二つの語群を自動処理した編集作業は，かつて経験したことのない，全く新しい試みではありましたが，数次にわたる中間チェックを重ね，ついに目的通りの結果を得ることができました．わたしたちの喜びが，利用者各位の喜びともなることを祈るのみであります．

1984年4月

藤岡啓介

追記：本大辞典の熟語成句の選定に当たりましては，先に小社が刊行した『成句活用辞典』（1978年4月）『翻訳発想辞典』（1977年11月）に多くを負っております．前書では監修に当たり，後書では対訳，注解の執筆に当たられた工業英語翻訳家水上龍郎氏に，末尾ながら深甚なる謝意を表します．なお，対訳データ作成に当たり，両書の訳文を編集部にて大幅に改訂いたしておりますが，これらの責は一切編集部にあることをここに明記いたします．

●ＩＰ電子辞典覚え書

科学技術の用語を英和対応の形でコンピュータに入力し，必要なソフトウェアを開発して思うがままの辞書を編集したらどうであろうか，また，それが果たして可能であろうか――．

印刷技術のひとつである写真植字機が，コンピュータにより入出力される電算写植機となって間もない時，かねてからの辞書自動編集の願いがいよいよ現実のものとなった，なったはずだと，早速に試みたのが1975年，秋に原稿を調えて印刷所に渡し，翌76年の４月に刊行した『英和科学技術複合語辞典』（小柳修爾著）で，これが今日いうところの“電子辞典”を目論んで当社が取組んだ最初のデータ作りでありました．

しかし，意図は善しとしながら，結果は従来技術で作るものとなんら変わりのないものとなってしまいました．校正機能のない端末機，未熟なプログラム，そして辞書編集者側の非現実的なデータベースの設計思想などが原因でした．折角用語を英和対応で入力し電子化（紙のさん孔テープ）しながら，和英編を自動編集することは勿論のこと，英和編においても最終プロセスでは手作業に頼るという，“電算”に適わしくない貼り込みで終幕を迎えることになったのです．

1984年４月現在，当インタープレスでは語彙総数40万語を越える科学技術用語（英和対応），ほぼ４万件になろうとする対訳文章をコンピュータ処理可能のデータベースとして貯え，編集処理プログラムを開発してきております。またこの間，小辞典シリーズから1983年４月刊行の『科学技術25万語大辞典』，同年11月刊行の『科学技術活用大辞典』など，すべて電算処理による大辞典を作成し，さらに入力データの一部を『ＩＰ電子辞典』として商品化することに成功しました．

このたび『科学技術熟語表現大辞典』を刊行するに当たり，また『工業英語』誌上に新しいデータベースを継続的に公開するに当たり，当社における辞書の“電子化”の経緯を記してニューメディア時代に脚光を浴びるデータベース作りの舞台裏をご紹介しておきましょう．

『複合語』では発注する側の不勉強，受注する側での支援体制の不備があって当初の目論見であったデータベース作成はデータがありながらデータとして使えないという結末になってしまいましたが，つぎに試みた『語群』では，英和データを和英に自動的に編集させることに成功しました．

工業英語を名詞でみる場合，複数語によってひとつの技術語が成立していることに気がつきます．たとえば straw bag wearing machine（かます織機），cattle-clipping machine（家畜剪毛機），crimping beading-and-flanging machine（型押し縫合機），cylindrical grinding machine（円筒研削盤）など，名詞，形容詞，現在分詞などが machine という名詞に連なって１語となります。試みに，この machine があとにつく言葉を集めてみたらどうなるだろうか．『工業英語』誌の1977年４月号から連載した「語群研究・machine」の英和編，和英編は，こうした意図で1976年に着手したものであります．

『複合語』のときよりも発注する側も研究が進み，英語に対応する日本語を machine readable とさせるために読み仮名を付けるなど，事前の作業も施して美事 2,100 余件の英和を和英に自動的に編集し直すことができました．

しかし，ここで問題となったのはコストの問題です．事前の仮名ふり作業と紙テープを相手の校正処理の煩わしさと不確実さも好ましくありませんでした．

書籍の索引を作る程度の規模ではコスト高でプログラム費を支払い電算写植機まで動かす意味がありません．コンピュータ処理ならではの（単に語順配列だけでない）プログラムを開発して初めて，自動処理のメリットが現われてくるものです．当然の事実ながら，その事実の重みを請求書を前に改めて噛みしめたものでありました．

『語群』を誌上に発表した1977年，きわめて単純な構想ではありますが，語彙の継続的増殖と１語１語に典拠（専門技術分野）を与えることでコンピュータならではの技術的効果，経済効果が得られることに思い到りました．それは，machine，test，device などの技術語の語群ではなく，技術の専門分野ごとに使用されている言葉を語群としてとらえるものであります．

1978年春，新しい構想のもとで技術分野別に語群の入力を開始しました．翌79年３月から毎月刊行というハイスピードで『ＪＩＳに基づく英和・和英技術用語辞典』シリーズ全５巻が刊行されました．そして引き続いて『学術用語に基づく英和・和英科学技術用語辞典』全９巻の刊行．

このとき，当社の入力する英和対応の用語集は，コンピュータ・システムによって利用しうるデータベースとなったのであります．

１．言葉に典拠を付与（典拠は即語義である）．
２．増殖が可能．典拠内での用語の増殖，典拠を新設し新語群を増殖．
３．加除訂正（日々新版）．
４．対応外国語の追加．
５．対訳文章のデータ化．

以上のようなねらいを持たせた基本設計でデータの構築が開始されたのですが，当面は１．２．項が効果的に満足されればという状態でした．日本語（漢字）をディスプレイできる端末機がなく，入力も従来の日本語タイプライターに特殊なデバイスをつけて漢字コードを紙テープにさん孔するといった有様です．現在のワードプロセッサ，マイコンでの入出力，処理能力にはほど遠いもので，３．４．５．項が容易にかなえられるときこそ，われわれがかって夢想もしなかった“電子辞典”のイメージを持つ辞書が現われることになろう，わたしたちは期待しました．

1983年４月，『科学技術25万語大辞典』が誕生しました．紙テープで構築してきたデータはいつか入力端末機のフロッピーディスクに移され，日々画面を見ながら入力し，訂正し，語群を増殖し，そして新しい画面を設計しながら対訳文章までも容易に入出力，処理できるようになりました．まさに電子辞典の出現であります．当社の『25万語』とそのデータベースを取材された1983年６月７日付の毎日新聞夕刊に「電子出版25万語…世界でも初めてという“電子辞典”が誕生した」と大きく報ぜられ，ついにわたしたちの jargon であった“電子辞典”なる言葉に市民権が与えられました．

いま“ＩＰ電子辞典”は英和対応用語，文章の従来データの拡充に加えて，複数外国語のデータ構築へと歩みを進めておりますが，ニューメディア時代，本データベースが紙をメディアにしない辞書としての場を得ることは勿論，情報検索システムに，自動翻訳システムにと，その用途を拓いていくことでしょう．

その中で，わたしたちが当面お約束できることは何かといえば，膨大なデータを処理して，重要語の頻度分析，基本語彙の選定，標準対訳文例の作成，新語情報の提供など，翻訳の現場に直接役立つ事柄を，紙のメディア(書物)，磁気のメディアを利用して提供することであると考えております．ご期待いただくと共に，利用者各位からのご要望，助言，資料提供を心よりお待ちいたしております．

1984年４月　　**Editor　藤　岡　啓　介記**

追記：『工業英語』誌創刊10周年記念事業として科学技術三大辞典『25万語』『活用』『熟語表現』を企画，無事刊行するに至りましたが，当社のデータベース構築開始時より一貫して，その優れた技術力を発揮して支援して下さったアドレスデータ㈱に，誌面を借りて末尾ながら感謝いたします．とくに同社社長杉山光氏の適切な助言，未来を確信した励ましの言葉，納期・コストでの協力がなければ，このような事業は成立しなかったでしょう．また，企画・編集・製作・販売の全てで責務を分担してこの『三大辞典』に取組んだ当社専務取締役藤岡美保子および幹部スタッフ川口一之，可部淳一の名を記して，本事業完遂の喜びを共にしたいと思います．

本書の成り立ち
——活用辞典，コンコーダンスの応用または発展として

本辞典は，別稿でも言及があるように，1983年４月刊行の『25万語』,同年11月刊行の『活用』と合わせて，小社の大辞典三部作を構成するものです．内容の点では『活用』と，ほぼ同じ構想に基づいており，活用辞典及びコンコーダンスの考え方を応用あるいは発展させる形で製作しております．

ここでは，本辞典の成立事情の一端を明らかにし，本辞典利用の便に資するため活用辞典とコンコーダンスについて簡単に触れてみます．

●活用辞典の必要性

言葉の意味が分からなければ，翻訳はできません．しかし，言葉の意味が分かっただけでは十分ではないでしょう．

単語１つ１つの意味は分かるし，英語のままで内容も摑めるのだが，どうも日本語にならない—英文和訳をしていてこう思ったことのある人は少くないと思います．同じことは，和文英訳の場合にもあてはまることです．

どうしてこういうことが起きるのか？それは言葉の使い方，結びつき方，日英間の発想の違いを自在に変換する方法が分からないからではないだろうか．それなら，言葉とそれを使った例文とを組み合わせて，まとめたらどうだろう．言葉の持つ多様な意味が文中で示されるような例文を集めれば，翻訳はずっと能率的にすすめられるようになるのではないだろうか．

活用辞典の発想はこんなところから出て来たのでしょう．

「英作文は英借文」という言葉は活用辞典の有効であることを明快に表わしていますが，この有効性を増すためには，当然そこに収められている例文の質が問題になってきます．借りるに値する質のよい例文を数多く集めることが，活用辞典の価値を高め，活用の度合いを増すための眼目となってくるわけです．そして，そのことが活用辞典を作る側にとっての大きな課題であるとも言えます．

●活用辞典へのアプローチ

見出語と，それを含む例文を示したもの，活用辞典の形式を要約すれば，こうなりますが，その作り方には２つの方法が考えられます．

１つは，見出語となるべき言葉を鍵にして，それを含む文を渉猟し，集めたものを整理してまとめるという方法．

この方法で作られたものは，例文の出所の多様性に富んでいます．小説や戯曲などの文芸作品，新聞記事，手紙等々——世の中に流布しているすべての〝文〟が（特に枠を設けない限り）対象になります．１つの言葉の持つ多様な意味をカバーするには効果的ですが，反面，一冊の辞典という統一体に多様性が同時に含まれることになり，技術文書の翻訳に必要な例文を小説から借りるとい

うような，翻訳者にとってはいささか不本意な事態も起こりえます．

この問題の解消のためには，当たり前のことですが，例えば技術文書翻訳のための活用辞典を作るときには，技術文書のみから例文を収集すればよいわけです．

現在，刊行されている多くの活用辞典は，そのほとんどがこのような方法で作られています．内容を充実させるためには，時間と労力をかけなければなりません．

もう1つは，情報処理の分野で〝クイック〟＝ KWIC (key word in context) と呼ばれる処理を行って作るもの．正確には KWIC インデックスと言うべきなのですが，『マグローヒル科学技術用語大辞典』には次のように説明されています．

「 書物の題名やその書物の引用句などのキーワードを選定し，このキーワードが題名または引用文のどの部分にあっても，これが一定の位置にくるように配列した索引」

別の言い方をすれば，ある1つのまとまった文献をコンピュータに入力し，選定されたキーワードとそれを含む文（＝context）をすべて示したもの，ということになります．

この方法で作られたものが，コンコーダンスとして刊行されている例がありますが（後述），理論的には入力した文献の中の言葉をすべてキーワード，あるいは辞書的な言い方をすれば見出語として取り出せます．しかも，元が1つの統一ある文献ですから，見出語を含む文のレベルも一定です．入力した文献がマニュアルなら，そこから取り出した文がすべてマニュアルに使われる文ということになるのは，当然のことであるわけです．

したがって，この方法で活用辞典を作れば，それはマニュアル翻訳のための例文集としては，最適のものであるといっても過言ではないでしょう．本『熟語表現』においては，ここで言う「統一ある文献」として，米国の技術雑誌 *Machine Design* の記事を採用しています．さらに，単語単位のキーワードに加えて，熟語成句をもキーワードとしているため，単語の用例と熟語成句の用例が検索可能です．

●コンコーダンスの価値

KWIC の応用としてのコンコーダンスには，上述のように活用辞典への展開もあるわけです．これについてはさらに後述しますが，その前にコンコーダンスの価値の高さ，あるいは存在意義について，実際の例に基づきながらもう少し検討してみましょう．取り上げるのは，コーネル大学出版局刊行の『種の起源によるコンコーダンス』(*A Concordance to Darwin's Origin of Species*) です．

これは，コンピュータによって出力したリストをそのまま写真製版して本の形にまとめたもので，いかにも〝データ〟という印象の強いものです．頁の中央に大文字でキーワードが縦に並べられ，その左右には，キーワードが含まれている文が続いています．つまり，キーワードがどの文の中にあるかが分かるようになっているわけです．各文には，『種の起源』（初版）の中の何頁にその文があるかを示す数字が付されています．

「進化に対する関心の高まりに応えて，このコンコーダンスを作った」と序文は始まっています．ダーウィンの数多い著作の中から『種の起源』を選んだのは，これがダーウィンの最良の著作であるばかりでなく，人類の文化に大きな衝撃を与えた書でもあるからだ，としています．

そして，ダーウィンのこの書は，刊行以来そこに盛り込まれた思想や使われている言葉に込められた様々なニュアンスによって，進化を研究する者の興味をかきたてたり，悩ませたりして来たが，このコンコーダンスを分析することで，ダーウィンの思想をより良く理解する一助としてほしいと述べています．

この序文の中で注目したいのは，このコンコーダンスが進化を研究する者だけに役立つのではな

いと言っている点です．歴史学者，生物学者，言語学者とつづいて一般大衆 (general public) にも役立つとしているのです．

一般大衆というのは，いささか勇み足の感もありますが，編者の言いたいのは，利用者側の取り組み方によって，いかようにも価値を引き出せる内容を持っているということでしょう．

一見すると，単なるデータの集積でしかないようでも，そこに潜んでいるものは大きいわけです．言語学者というのが出て来ましたが，その気になれば，翻訳者にも使えるものとなります．例えば動詞と前置詞の結び付き方などが一目瞭然に示されるわけですから（ただし，19世紀の英語だという条件付きですが）．

●コンコーダンスと活用辞典の間

KWIC を出版物に利用した例は，前述のダーウィン以外にも，シェークスピア全戯曲のコンコーダンス（*The Harvard Concordance to Shakespeare* by Marvin Spevack, 1973 Georg Olms Verlag, Hildesheim）などもあり，それ自体は決して珍らしいものではありません．

しかし，それらの用途は主として研究に向けられており，ダーウィンのコンコーダンスの序文に〝一般大衆にも有益〟とはあるものの，大衆的な用途とはいささか縁遠い感がありました．コンピュータ出力のリストをそのまま写真製版して本にしてしまうというような素材むき出しの出版物が存在する余地があるのもそのあたりの事情を暗に物語るものと言えそうです．

もっとも，これらは欧米の出版物であり，コンコーダンスの大衆的な用途と言っても，そもそもそれ自体が実態の乏しいものだからかもしれません（ここでは，コンコーダンスという言葉を KWIC を利用したものに限定して使っています．それ以外のコンコーダンスとしては，聖書やシェークスピア作品などかなり一般的なものがあります）．

ところが，日本では事情が異なります．ひとまとまりの英文にその対訳日本語を付け KWIC を行えば活用辞典が出来てしまうのです．もちろん，実際はこんなに簡単に行くものではありません．

どういう英文を使うか，その日本語訳は信頼のおけるものか．さらにはキーワード抽出の問題．英文に関しては単語ごとにキーワードとして扱えますが，日本文からどのようにキーワードを抽出するか．そして，これは英文のみの場合にも共通ですが，抽出したキーワードの選定の問題．それらが解決すると，ではどのような組体裁にすれば使い易い活用辞典となるかというレイアウトの問題等々．

コンコーダンスと活用辞典の間には，このように解決すべき問題が山積していますが，これらはどちらかというと〝ハード的〟な問題です．KWIC を利用したコンコーダンスを活用辞典に仕立て上げるという発想——これは〝ソフト的〟な問題と言っていいでしょう——を，いったん確立してしまえば，技術的に対処できるものです．

コンコーダンスは，翻訳のための活用辞典への応用という，言わば極めて日本的な必要性から生じた発想によって大衆的な用途を確立しえた，と言うことができるでしょう．

（本稿は『科学技術活用大辞典』掲載の「本書の成り立ち——コンコーダンスと活用辞典」に加筆したものです）

凡　例

〈本辞典の構成〉

・本辞典は熟語表現キーワード（英和・和英）と辞典本文との二部構成になっています.

・英和キーワードは本辞典の和英編に，和英キーワードは本辞典の英和編にそれぞれ収録されています.

・本凡例は辞典本文を対象にするものです．キーワードの凡例は，キーワード扉にあります.

〈見出語〉

・見出語には，以下に示すように単語見出しと熟語見出しの２種類があります.

〔単語見出しの例〕

英和編――abandon, abbreviation, ability……

和英編――相変らず，合図，間……

〔熟語見出しの例〕

英和編―― [this is] accomplished by（で）実現できる，according to（に）従って，（に）よれば……

和英編――（の）間（時間，距離）for the space of,（～）と相まって～した combined with……

・単語見出しは，英和編では英語のみ，和英編では日本語のみとなっていますが，熟語見出しの場合は英和編・和英編ともに英語・日本語を併記しています.

・原則として見出語には，それを含む例文を付していますが，熟語見出しのものには，一部例文のないものもあります.

・見出語は，例文中の位置に関係なく（つまりその語が文頭にあって大文字で始まっているような場合であっても）すべて小文字で示されています.

〈例文〉

・本辞典の例文は，米国ペントン社刊行の技術誌 *Machine Design* に1975年から1977年にかけて掲載された記事から選択されています．訳文作成にあたっては，前後関係から英例文中にない言葉を補っている場合があります.

・例文中の太字部分は，英和編の単語見出し例文では見出しに対応する英例文中の語，和英編の単語見出し例文では見出しに対応する和例文中の語です.

・熟語見出し例文においては，英和・和英編ともに英例文・和例文中の見出し対応部分が太字になっていますが，和例文中では，文脈に応じて見出しとした訳語を適宜変更しているため，見出しとした熟語の和訳と例文中の当該熟語の和訳とは必ずしも一致しません．和例文中に太字のないものは見出し熟語に相当する意味が言外にあり，文中に表れていないものです.

・１つの例文中に見出語と対応する部分が複数個所あるときは，同一例文が複数回示され，文中の太字部分が順に移動して行きます.

〈削除語について〉

本辞典では，熟語以外の見出語を例文中から抽出しています（前稿「『科学技術熟語表現大辞典』

の成り立ち」参照).英和編では英文を構成している単語をキーワードとして扱い，これを含む文を検索するという形で，和英編では和文に原則として品詞単位による分かち書きを施し，その分かち書きの単位ごとにこれを含む文を検索するという形で，それぞれの基本データを作成しました.

この基本データには，“the”，“a”，“an”，“and”，“of” あるいは，助詞の“が”，“は”，“に”，“を”などのように非常な高頻度で文中に出現するものが多数含まれていますが，これらをそのまま収録することは，使いやすさの点で支障をきたす原因になるとの判断から，あらかじめいくつかの語を削除語に指定し，基本データから，排除するという方法を取りました.

削除語の選定に当たっては『種の起源によるコンコーダンス』の削除語リストを参考にし，別表に示すような結果を得ました．最終データをまとめるに当たっては，さらに削除を加え，最終レコード件数は英和編18,295件，和英編18,355件となりました（ここで言うレコード件数とは，見出し1つと例文1つとの組み合わせの数です．したがって，ある見出しを含む例文が2つあるときのレコード件数は2件ということになります).

削除したレコードの中には，貴重なものながら，やむなく削除対象としたものも多数ありました．これらについては，整理の上，小社刊行の月刊誌『工業英語』誌上で順次掲載して行きます.

削除語リスト

ここに示すのは，第１次選定の削除語リストです．数字は出現回数を示します．

▶英　語

A ……73
a……815
All ……12
all ……62
Also ……11
also ……55
An …… 9
an……187
And……19
and ……946
Another ……11
another …… 9
are……327
At ……17
at ……174
be ……328
been ……77
being ……43
But……41
but ……42
C……12
Co …… 8
cu…… 6
do ……22
does……22
doesn't …… 3
doing …… 1
don't…… 2
F…… 8
feet…… 1
From …… 5
from ……186
ft……14
had……27
has……109
have……131
having ……11
He…… 6
he……16
himself…… 1
His…… 1
his……19
hundred …… 1
I…… 5
I'm …… 2
Inc …… 2
is……552
It ……35
it ……103
Its …… 1
its ……55
me…… 2
my …… 1
Of …… 7
of……1494
or ……223
Our …… 1
our …… 8
own…… 6
P …… 2
percent …… 3
pound …… 2
psi……10
The……296
the ……2091
Their…… 3
their ……50
them……20
themselves…… 4
These ……30
these……66
They ……11
they……44
This ……60
this ……80
Those …… 2
those ……30
To ……25
to ……986
tons……12
very……23
vs…… 1
You…… 2
you……17
Your…… 6
yourself …… 1
合計 ……10244

▶日本語

あって……14
あの…… 4
あり……53
ある……605
あろう……40
いた……14
いる ……576
か ……167
が……1375
かも…… 9
かれら…… 1
彼ら…… 4
こと ……408
この ……319
これ……69
これら……62
さ…… 1
され…… 4
された…… 4
し……24
して ……181
諸…… 5
しよう…… 1
上……21
しれない…… 8
数……28
すべて……46
する ……110
そして……23
その ……185
だ……89
たち……17
たら…… 3
つつ……13
て…… 8
で……1037
ても…… 6
と……1205
とも……18
な ……398
ない ……100
ないし……21
なく……41
なけれ……37
など……76
何…… 8
なのだ…… 2
ならない……47
ならびに……29
に……2370
にくく…… 1
の……3187
は……1553
ば……66
へ……47
また……92
または……34
まで……74
も ……233
もっとも……20
もの……193
や ……145
よう ……126
ようだ…… 2
ような……71
よって……84
より ……125
よる……70
よれば……27
ら…… 1
られた…… 8
れば…… 3
われわれ……10
を……1815
合計 ……17873

総レコード件数，英和編37,178件，和英編41,029件から上記のレコードを含む英和編18,883件，和英編22,674件を削除し，最終出力レコード件数は英和編18,295件，和英編18,355件となっています．

熟語表現キーワード

和　英　編

凡　　例

○ここに揚げる語句は，本大辞典の文例検索のために作成したキーワードであります．

○キーワードは，一般の英和辞典に収められている熟語のほかに，英文和文のいずれもにおいて常套的な表現を構成する語句を選定しております．とくに和表現に重点を置いたものであることにご注目下さい．

○冠詞，be 動詞，仮主語など，語順配列のソート対象としない語句は［　］でくくっております．

○語法上出典の語句を残した方が利用に便な場合は，その語句をソート対象としないよう［　］でくくっております．

○動詞には自動詞，他動詞の別がありますが，本キーワードでは繁になることを避け，対応訳の和表現で（　），～を使うなどして，その別が分かるよう工夫しております．

○本大辞典では動詞をキーとした場合，文例にある現在，過去，現在完了，受動態の形で検索しておりますが，本キーワード集では可能な限り原型に変換しております．

○英熟語にある前置詞は，本大辞典の場合重要なキーとなるため，in，at，on など全て検索の対象としております．

編　集　部

あ

(の)間(時間,距離)　for the space of
(の)間に　in the course of
(～と)相まって～する　combine with
(に)合うように　in the way of
(は)明らかである　there is strong evidence that
(つぎの問題を今後)明らかにしなくてはならない　questions to be answered include :
(が)明らかになる　reveal that
(を)あきらめる　give up on
(～へまたは～からの)アクセス　access to or from
(に)アクセスする　have access to
悪天候下で　under adverse weather conditions
(を)あげることができる　include
(への)足がかり　stepping stones to
値が～に近い　close in value to
(の)新しい方法　[a]new approach to
(火災に)あっては　in[fires]
(を)圧迫する　bear on
圧力下で　under pressure
あての送り荷で　to the consignation of
あての手紙に同封して　under cover to
(の)後で　[be]followed by
(人身の安全を追求する面は)後に残す　outstrip concern for human safety
(への)アプローチ　approach to
(に)甘んじて　content to
あらかじめ定められた順序で　in a predetermined sequence
(の簡単な)あらまし　[a]quick sketch of
(に)表される　[be]reflected in
(として)表される　[be]represented as
(で)表す　represent by
現われる　become available
(として)現われる　emerge as
(から楽に)歩いて行ける所に　within an easy walk of
ある意味で　in a sense
ある種の　some sort of
ある程度　to some extent
あるべき場所に　in place
(に)合わせた　consistent with
(に)合わせて作る　[be]tailored to
(を)暗示して　in allusion to

い

(と)言う　referred to as
以外の　other than
いかに～しても　no matter what
いくらかの　[a]couple of,[a]number of
(と)意見が違って　at variance with
(という)意見に落着きはじめる　much of the praise goes to
(の)意見によれば　in the opinion of
(専門家の)意見によれば～である　[experts] feel that
(教育者には～との)意見を持つ者が多い　many[educators]claim that
(～から～への)移行　transition from[～]to
(よりも)以上に　in excess of
いずれにしても　in any case,in both cases
以前よりもっと　more[～]than ever before
(に大きく)依存する　rely heavily on
一度だけ　once and for all
一度に　at a time
一例をあげると　for one thing
一連の　[a]series of
(と)一貫した　consistent with
一見したところ　at first glance
(起こる可能性は)一向になくならない　there is always a chance of
(と)一緒に　in the company of
(と)一緒になって　in consort with
(と)一緒になる　mate with
(だけ)いっそう効果的　[be]all the more effective
(と)一体化した　integrated with
(に)一体化する　combine in
(と)一体化する　integrate[it]with
(に組込んで～と)一体にした　integrated with
(に組込んで～と)一体にする　integrate[it] with
(と)一体になる　mate to
いったん～すれば　once
(と)一致して　at unity with,in accord with,

in agreement with, in conformity to, in conformity with, on all fours with
(とよく)一致していると報告されている [be]reported to be in good agreement with
一対の [a]couple of, [a]pair of
いつでも～することができる [be]ready to
いつでも～する状態になって [be]ready for
一般的な意味では in a general sense
(は)一般的な考え方である it is generally felt that
一般に in general
(と)一般は見ている [the]view is widely held that
一方 in the meantime
(単独で)一方では on the other hand
一方では～もう一方では on the one hand, [and～]on the other
一方は～；他方は～ one[～]；the other
一方または両方 either or both
(の)意のままで at the discretion of
(に)違反して in contravention of, in violation of
今すぐには in the immediate future
今までより than ever before
今のところ so far
今までは thus far
(に)意味のある meaningful to
(に)入れられる [be]entered into
いろいろな [a]variety of, [a]wide variety of
(教育者に)いわせれば as[educators]see it
(であると)いわれる said to be
(と)インタフェースをとる interface with

う

(の)上に in addition to, on the top of
(を)受けやすい subject to
(を)受ける [be]exposed to, subject to
(の)後に at the back of
(～に～を)薄くめっきする plate[～]with a thin coating of
(には)疑いがない there is no doubt where
(の)疑いで on suspicion of
(に)打ち出す print out on
(の)うちに in the course of
(を)打つと on the stroke of
(へ)移る proceed with
(～から～を)奪う rob[～]of, rob[～]of
(から)生まれる come from
(を)うらやんで in envy at, in envy of
(で)売る sell for
運営する carry on
運転可能の状態で [be]ready for operation

え

(に)影響力がある bear on
(に大きな)影響を与える have much effect on
(の)影響を受けて under the influence of
(の)影響を受けにくい less subject to
(の)影響を受ける come under the influence of
(に大なる)影響をもたらす have a great impact on
(から)得る derive from
(～を)エンゲージする attract[～]into engagement
(の)援護を受けて under cover of, under the cover of
(を)援助して in support of

お

(に)応じて in answer to, in response to
(に対する)応答 response to
(に)応答して in response to
(に)応答する respond to
(に)大いに気に入って in high favor with
大きくなり始める begin to grow
(に)大きな効果がある have a dramatic effect on
(について)多くの理由があげられている [a] number of reasons have been advanced for
大幅に by a large margin, to a large degree, to a large extent
(の)おかげで thanks to, under favor of, under the favor of, with the help of
(～を～と)置換える substitute[～]for

(心の)奥底まで　to the depth of
(の)奥深いところで　in the heart of
(に)遅れずに　in time for
(に)遅れて　in arrear of
(～を～から)遅れないようにする　keep [users]abreast of
(に)遅れをとらない　keep pace with
行う　carry out
起こる　come about
(を)恐れて　for fear of,in fear of
(という)恐れもある　there is also some fear that
(当然の位置に)落ち着く　fall into place
落ち着く　settle down
(を)驚かして　to the wonder of
(と)同じ　equal to
(に)同じ　identical to
同じ仕方で作動する　act in similar fashion
(と)同じ高さで　on a level with
(についても)同じである　[the]same is true for,[the]same is true with
(将来われわれを)脅かすものの一つに　one of the earliest possible warnings
おまけに　as well
(を)思いのままに　in command of
およそ～程度　on the order of
(の)及ばない　beyond the control of
(の)及ばないところ　beyond the sweep of
(の)及ぶ限り　extent of
(に)及ぶが,そのうち　of more than
(の)及ぶところ　within the sweep of
(の)おわびに　in apology for
(の)終わりに当たり　at the conclusion of
音速の～倍　[seven]times the speed of sound
オンライン化する　go on-line

か

(についての)概観　[a]look at
(の)概観　[a]quick sketch of
開始する　take place
概して　at large
(の)改正をもたらした　brought a[belated] revision of
改善しようとする　overcome the deficiencies of
(老齢化したプロセスを)改善する　put these old processes to work in better ways to
(タンカーの運用効率を)改善することで　through more efficient[tanker operation]
買いたいと望んで　in the market for
(に関する)ガイダンス　guidance on
(～することへの)解答　[the]key to [adjusting]
(に対する)解答　answer to
(に)該当する　correspond to
界において　in the domain of
開発活動はすべて～に沿って推進される　[these]developments will go a long way toward
(主として～を)開発すべく努力している　[be]concentrating[their main efforts]on developing
(を)開発するために研究中　work[be]in progress to develop
(の)開発成果の一つとして　one of the advances in
(目下)開発中の　[be]currently under development that
(このような)開発の帰結として～である　one consequence of this development is that
皆無にしている　free of
解明する　work out
～か～か　whether[～]or
(に)欠かせない　essential to
(～)係りの　in charge of
(にも)かかわらず　despite,despite of,in face of,in spite of,in the face of,in the teeth of
(～する)鍵　[a]key to[obtainning]
下記の働きをする　perform these functions
(する)限り　as long as,so long as
(の)限り(では)　to the best of
(する)限りにおいて　insofar as
各種の　[a]wide variety of
(を)欠く時は　in absence of,in the absence of
(と)確度をもって一致する　matches[～]with sufficient accuracy
(かどうか)確認する　determine if
確認する　make sure

(十分に性能が)確認できれば　when fully certified
(に)隠れて　under cover of, under the cover of
(を)賭けて　at the hazard of
(の)陰で　under the shade of
(の)陰に隠れて　under the lee of
(により)影をひそめてしまう　[be]dwarfed by
(に)かこつけて　under cover of, under pretense of, under the cover of
過去において　in the past
(の)風下に　under the lee of
(の)風下の側に　on the leeward of
(風によって煙が)加速度的に広がる　[smoke spread is]accelerated by[winds]
(の)形で　in the form of
の形で(の)　in the shape of
(に)傾く　lean toward
(～させるという点で)価値があるものと思われる　[can be]credited with
活動を始める　turn on
かどうか　whether or not
可動部のない　with no moving parts
必ずしも～でない　not necessarily
かなり　by a large margin, to a large degree
かなり多くの　[a]significant amount of
かなりの量の　[a] fair amount of, [a] considerable amount of
(できる)可能性がある　[is the]potential for providing
可能性がある　have prospects of
(の)可能性は　[the]potential of
(の)可能性は事実上無限である　[the] potential of[～]is virtually unlimited
(ある程度の)可能性を示している　give some indication of the possibilities
(の)可能性をなくする　preclude the possibility of
可能である　[be]able to
(を利用して)可能である　[is]easily accomplished via
(音声応答により～が)可能である　[voice response]will allow
可能ならば　wherever possible
(を)可能にする　pave the way for
(～に応じて)可変する　vary along with
(に)かまわず　in defiance of
(に)かまわずに　without regard to
(の)上座(上席)に　at the head of
(が)加味され　[been]joined by
(の)仮面をかぶって　under the mask of
(に)代わって　in the name of, on behalf of
(の)代わりに　in place of, instead of
(に)代わるもの　alternative to
(という)考え方に基づいた　[be]based on the concept that
(を)考えただけで　at the bare idea of
(しようと)考えて　with the thought of
(と)考えている　feel that
(と)考えられる　[be]thought of as
(非現実的だと)考えるフシがある　[can, at times,]seem unrealistic to
(ある一定の)間隔で　at certain intervals
(に)かんがみて　in view of, with a view to
環境条件のいかんでは　under certain circumstances
(に)関係して　in association with
(に)関係する　involved in
(と)関係ない　not relate to
(とは)関係なく　independent of
(に)関係なく　regardless of, without reference to
換言すれば　in other words
感光紙に結像する　[be]focused onto photosensitive paper
(従来に優る方法を)勧告する　recommend improved methods for
(を)観察して　on the view of, on view of
(に)関して　as to, in connection with, in reference to, in respect of, in terms of, in the way of, with respect to
(に)関しては　in the matter of, with regard to
(についての)関心　concern about
(良いことへの)関心　concern for[human safety]
(良くないことへの)関心　concern over[high-rise fires]
(に直接的)関心がある　[be]of immediate interest to
(で)含浸する　impregnate with